３古典文法―助動詞・助詞・敬語・識別

１　次の――線部の助動詞の意味をそれぞれ後から選び、記号で答えよ。

①　目も見えず、ものも言はれず。 （　　　）

②　風の音にぞ驚かれぬる （　　　）

③　瀬をはやみ岩にせかるる滝川の （　　　）

④　あらしふくみの山のもみぢ葉はの川の錦なりけり （　　　）

⑤　男もすなるといふものを女もしてみむとてするなり。

（　　　）（　　　）

ア　断定（だ・である）　　イ　可能（ことができる）

ウ　自発（自然と）　　　　エ　受身（れる・られる）

オ　伝聞（とかいう・そうだ）

２　次の――線部の助動詞の意味をそれぞれ後から選び、記号で答えよ。

①　羽なければ、空をも飛ぶべからず。 （　　　）

②　潮満ちぬ。風も吹きぬべし。 （　　　）

③　もの一言、言ひおくべきことありけり。 （　　　）

④　（自分が）必ず救いまゐらすべし。 （　　　）

⑤　が首をはねて、わが墓の前にくべし。 （　　　）

ア　推量（だろう）　　　　　イ　意志（よう）

ウ　可能（ことができる）　　エ　当然（べきだ）

オ　命令（せよ）

３　次の――線部の助詞の意味をそれぞれ後から選び、記号で答えよ。

①　あつぱれの者かな。 （　　　）

②　心のままに教へほしたてて見ばや、 （　　　）

③　あやまちすな。心して降りよ。 （　　　）

④　手に取ればさへにほふ （　　　）

⑤　問はぬ木すらとありといふを （　　　）

ア　添加を示す「まで」　　イ　詠嘆「だなあ」

ウ　自己の希望「たい」　　エ　禁止「するな」

オ　軽いものをあげて重いものを類推させる「さえ」

４　次の――線部「ぬ」の文法的な説明として、最も適当なものを後から選び、記号で答えよ。

①　いや高に山も越え来ぬ （　　　）

②　みれど飽かぬの川の （　　　）

③　わが身死ぬべきに定まりたりとも、 （　　　）

④　ぬさをたてまつる心は君をく来ませと （　　　）

ア　名詞の一部

イ　動詞の一部

ウ　完了の助動詞

エ　打消の助動詞

５　次の――線部の敬語の種類を答え、敬意の方向として最も適当なものをア〜エから選び、記号で答えよ。

　（帝が）かぐや姫の家に入り給うて見①給ふに、光みちて、清らにてゐたる人あり。これならむとおぼして、（中略）「許さじとす。」とて、ゐておはしまさむとするに、かぐや姫答へて②奏す、「おのが身は、この国に生まれてらばこそ使ひ③給はめ、いとゐておはしましがたくや④侍らむ。」と奏す。帝、「などかさあらむ。なほゐて⑤おはしまさむ。」とて、を寄せ給ふに、このかぐや姫、きと影になりぬ。 （竹取物語）

ア　作者から帝に対する敬意

イ　作者からかぐや姫に対する敬意

ウ　かぐや姫から帝に対する敬意

エ　帝から帝自身への敬意

① 種類〔　　　 　〕〔　 　〕

② 種類〔　　　 　〕〔　 　〕

③ 種類〔　　　 　〕〔　 　〕

④ 種類〔　　　 　〕〔　 　〕

⑤ 種類〔　　　 　〕〔　 　〕

６　次の――線部「なむ」の文法的な説明として、最も適当なものを後から選び、記号で答えよ。

①　髪もいみじく長くなりなむ。 （　　　）

②　その人、よりは心なむまさりたりける。 （　　　）

③　入らせたまはぬさきに、雪降らなむ。 （　　　）

④　誘ふ水あらばいなむとぞ思ふ （　　　）

ア　係助詞

イ　強意の助動詞＋推量の助動詞

ウ　他に対する希望の終助詞

エ　動詞の一部＋意志の助動詞

７　次の――線部を現代語訳せよ。

①　かぐや姫は、重き病をし給へば、えでおはしますまじ。

②　「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は寝入りたまひにけり。」

③　親王、らで明かし給うてけり。

①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

【解答】

１　①イ　②ウ　③エ　④ア　⑤オ・ア

２　①ウ　②ア　③エ　④イ　⑤オ

３　①イ　②ウ　③エ　④ア　⑤オ

４　①ウ　②エ　③イ　④ア

５　①尊敬語・ア

　　②謙譲語・ア

　　③尊敬語・ウ

　　④丁寧語・ウ

　　⑤尊敬語・エ

現代語訳　（帝が）かぐや姫の家にお入りになってご覧になると、光に満ちて、気品があって美しい姿で座っている人がいる。これがそう（＝かぐや姫）であろうとお思いになって、（中略）「逃がさないよ。」と、連れておいでになろうとすると、かぐや姫が（帝に）答えて奏上することには、「私の身が、この国に生まれたのでしたら（私を）お召し使いにもなれましょうが、（そうではないので）連れてお帰りになるのはとてもむずかしいことでございましょう。」と。帝は、「どうしてそのようなことがあろうか。やはり連れておいでになろう。」と言って、御輿を近くにお寄せになると、このかぐや姫は、さっと影になって（見えなくなって）しまった。

６　①イ　②ア　③ウ　④エ

７　①出ていらっしゃることはできないだろう

　　②起こし申し上げるな

　　③お休みにならないで（夜を）明かしなさっ（てしまっ）た

ポイント

５　①なり（動詞の連用形）＋な（強意の助動詞）＋む（推量の助動詞）

　　②心＋なむ（係り結びを作る係助詞）〜ける

　　③降ら（動詞の未然形）＋なむ（他に対する希望の終助詞）

　　④いな（ナ変動詞の未然形）＋む（意志の助動詞）